

ムハンマド ウマル ラオ 元ヒンズ 教徒のバラモン

:

明:

ムスリムにする い憎 感を抱いていたムハンマドが、彼らをするためにクルア ンを んだ 、世界 が
ります。

目: [事新改宗者ムスリムの逸 男性](#)

より: ムハンマド ウマル ラオ

日 1 Aug 2014

集日 10 Aug 2014

神の恩 により、私は神の宗教という祝福を受けられました。私はインド出身のムハン
マド ウマル ラオといい、6年前に18 でイスラ ムに改宗しました。私の改宗 によって、非
ムスリムが真 についてじっくりと考えるきっかけとなれば幸いです。私は最近二人の
同胞と り合いましたが、彼らは私の と 断が最善のものだったと 信し、クルア ンを み始
めた末に、つい数日前、改宗に至りました。神にこそ、すべての称 はあるのです。

私の生い立ち

私は中流 の 的バラモン一家の出身で、 は 人事 所（母は教 、父は 物技 ）で いていました
。私の宗教教育は母方の叔父の家で行われ、それによって私は 主 者となり、私の家族
の教育は常にムスリムへの 心を植え付け、それは私の奥深くに根ざすことになりまし
た。

私は数年 に渡り、RSS（民族 勇 ： インドのヒンズ 至上主 体）に わっていました。私は常
にムスリムたちに憎 を抱いていたため、公式行事のすべてで、モスクから流れるアザ
ン（礼 への呼びかけ）が全く こえないよう、音 を大音量でかけていました。また私は
、町中の寺院を回り、日々の崇 活 をこなしていました。私が 主 者であることを家族は

し、より活 的であるよう められたものでした。

イスラ ムとの出会い

夏に、母は私がムスリムのビジネス事 所で くよう求めましたが、私は幼少のときからムスリムたちを憎んでいたため、それを断りました。母はそれ以上、押し付けたりはしませんでした。私は何度か夏の期 を利用して非ムスリムの下で き、 を うことが出来ていたからです。しばらくすると、その仕事内容が に入らなかったためにアルバイトを辞め、より良い仕事がつけることが出来るよう、勉 に 念しました。一方、私の母と妹は、そのムスリムの下で2ヶ月 いていました。彼女たちは、彼に し非常に好印象を抱いていました。

私はこの人物に し、ずっと憎しみを抱いていました。なぜなら憎 の 象であるべきのムスリムを、自分の家族が えているという事 が に入らなかったからです。私は家 の役に立っていないとして不平不 を言われたため、仕方なくそのムスリムの下で くことにしました。彼の店に入ると、そこの非ムスリムだった店 がイスラ ムに改宗していたため、私の 感情は 加しました。私は比 研究によって、私の宗教が真 であることを彼に 明しよう と みました。

私は クルア ンの英 版 (ユ スフ アリ) を み始めました。これは、私の学生人生を えてしまう出来事でした。私は恐怖と疑念によって るがされ、私の行いはすべて ったもので、私の宗教は妄想 神 お伽 に ぎないのではないか、という考えが をよぎりました。そして私はどこに向かっているのか、何をすべきなのか、私の役割は何なのかといった 山の疑 が 出してきました。なぜ真 のメッセ ジは私たち皆に届けられなかったのでしょうか？ 多くの を抱えた私は、学生人生の全てを真 の探求に やすようになりました。

私は や周 の人々に、神の肖像画を描く人々は、 に神を たことがあるのか、と い しました。彼らは皆、 も神を たことはないと答え、クルア ンの多くの 面で言及されていることが 付けられました。最 的には、ヒンズ の神 が私の信仰を破 させました。ガネ シャ、チャ ムンダ 、ラ ム、シ タ 等の逸 は、私にとって理に叶ったものではありませんでした

